



菖蒲田浜の朝

# 厚生協会だより

2011年1月21日  
第 305 号

発行  
(財)宮城厚生協会

〒985-0835  
宮城県多賀城市下馬  
二丁目13番7号  
TEL 022-361-1113  
FAX 022-361-1124  
発行人：長澤清光

## 時の流れの中で

大手 礼二郎

\*大手礼二郎詩集「風の思惑～視点描～」より。大手礼二郎氏（中新田民主医院名誉院長故横山成樹先生）はあとがきで、『私の詩は私の深層心理である。叙情と情熱と、感受性と意気と、挫折と希望がない混ぜになっている』と述べています。混迷する現在の社会状況と照らし合わせつつ、この詩にふれていただければと思います。(1)

ある日  
樹木は葉ずれの音を消し  
小川が そのせせらぎの眩きをとめる  
遠い山脈の彼方から  
それは さながら  
わきあがる雲のような静寂をつつみこみ  
やがて  
重なりあつた多くの日々が消えて  
木漏れ陽のむこうに  
おびたらしい《時》のつながりがふくらむ  
どのような力が  
自然のしきたりを破つて新たな岐路に立とうとするのか  
どのような現実が  
自然への同化を止めた人間におおいかぶさってくるのか  
そして しばらくは  
そのような《時》の谷間に立ちすくみ  
無限のかなたにめくるめくのではあるが  
点燈された 今日息吹は  
いつしか根をはり 枝をひろげ  
その《時》の流れの中で  
したたかな  
明日の生命を醸造してしまうのだ

# 年頭のごあいさつ

## 「正義」を求め続ける私たちの声が 歴史を動かすことに確信を持ち歩みましょう



宮城厚生協会理事長  
水戸部 秀利

明けまして  
おめでとございます。

兔の対極の亀のように  
じっくりと足場固めて

政権交代から1年数か月、国民要求と日米同盟・財界の頸木の狭間でもがいた政権は、残念ながら国民の期待を裏切り、混迷を深めたまま2011年に突入しました。龍馬の時代から日本の資本主義140年余、戦後「民主主義

義」から60数年、長い歴史の流れの中では、現在を大きな転換の序章と捉えるべきかと思えます。

春には一斉地方選挙、政局によつては解散総選挙もあるかもしれませんが、今年卯年ですが、兔のような飛躍ではなく、干支にはない対極の亀のように、焦らず、じっくりと歴史の本流を見失うことなく、足場を固めて進んでいきたいと考えています。

.....

昨年、放映されたハーバード大学政治哲学のサンデル教授の公開講座「白熱教室」が年始に再放送されています。米国を中心に地球規模で拡大した市場万能主義、その思想的根幹のリバタリアニズムについて、「正義・公正」という切り口から論じる姿勢が、米国でも日本でも共感を生んでいるようで、歴史の流れの変化を感じました。

「自分がして欲しいことか？」を尺度に

昨年11月に、仙台市とホームレス支援団体共催で、「ホームレスの人権を考えるシンポジウム」が開催され、そこで宗教学の川端純四郎先生が講演しました。

サンデル教授の講義から問題意識を持つての質問だったのでしようか、講演後フロアから「先生は正義についてどう考えますか？」の質問がありました。

川端先生は、「己の欲することを人に施せ」と端的に答えていました。難しい哲学論議ではなく、さすが宗教者らしい、的を得た答えでした。保険料を払えない人から保険証を取り上げる、低所得者ほど負担の重い消費税を上げる、武力で相手を威嚇する、身近に起きている政治の課題を難しい哲学に頼らなくても「自分がして欲しいことか？」を尺度に、正義が否かを見ていくのも、一つの有力な視点になると思いました。

### 今年の厚生協会の課題

今年の厚生協会の最大の課題は、本年度中に公益法人申請を行い、2012年度は新しい法人としてスタートすることです。

さらに、泉病院リニューアル構想策定、懸案の賃金制度の見直し、坂病院病理部の再構築、マネージメントシステム構築など課題は山積みです。

.....

羅針盤を持たない政権政党下で、2012年度の医療・介護報酬同時改定も見通しが立てられないのが実情です。

不透明で激動する政治情勢ですが、紆余曲折や逆流はあっても「正義」を求め続ける私たちの声が、少しずつ歴史を動かしていくことに、確信をもって歩んで行きましょう。



坂病院全体学習会「患者さまの権利について」

# 「オール民医連」での医学生対策の 取り組み状況およびご協力をお願い



医学対事務局長  
**伊藤 恵**

## ■政府の打ち出した政策

「医師不足」「地域医療崩壊」などがマスコミで報道され、政府の打ち出した政策は医学部入学定員の引き上げと臨床研修制度の改訂による医師偏在の是正でした。

このことにより、来年度入学する全国の医学部定員の増員は、2008年から4年連続増員となり、来年度は8933人(2007年度は7625人)となる見通しです。医学部入学の狭き門が多少開いたこととなります。

一方、医師臨床研修制度は義務化された2004年から研修医の大学離れが起き、医師不足・地域医療崩壊の原因とされ、医師偏在を解消する手段として都道府県ごとに研修医数の上限が設けられました。

## ■宮城県内、民医連の状況

宮城県は医師数が全国平均よりも多い県として、昨年度より研修医募集定員数の削減が実施されています。

このことにより3年間の採用実績以上の募集はできないことになり、坂総合病院の募集人員は10名となっており、しかも、10年6名、11年7名と10名を割り込んでおり、12年は10名をマッチングすることが必要で、満たなかった場合翌年の募集は10名未満となります。

また、1年間の新入院が30000件に満たない臨床研修病院(基幹型)も、「基準を満たさないため取消し」とする指定基準が設定され、民医連に加盟している各地の中小病院が指定はずしになる

見込みで、民医連加盟の臨床研修病院はこれまでの半数の30前後(現在は)になる予定です。

## ■全日本民医連では

全日本民医連は30000件基準をクリアした民医連内病院で、他県連の奨学生の卒業臨床研修を保障する仕組みを作ること、募集定員枠を維持するためにマッチング制度でのフルマッチを目指すこと、医学生を取り巻く状況の変化に相応しい医学対活動のバージョンアップが必要なこと、医学生や研修医にとって魅力ある医師養成に変えていくなど、今後進めていくことを確認しています。

## ■宮城県民医連では

宮城県民医連は夏から秋にか

けて、専任者の増員を行いました。卒年(6年生)対策だけでは今後の安定した受け入れは困難であり、卒年対策の強化とともに低学年からの育てる医学対活動が必須であることから専任者の増員が必要と判断し、8月3名と10月に1名が配置され、現在医学対専任は8名体制になりました。

来年度のマッチングに向けて現在各地での説明会と個別面談などに出向き医学生との繋がりを太くしています。

低学年対策では、東北大学近辺にある医学生室への常駐化が実現し、東北大生との繋がりが強化されつつあります。

奨学生との定期的な面談も実施でき、一緒に将来の民医連医療を担う医学生との関係を強化しています。

高校生予備校生へのアプローチも、「一日医師体験」だけではなく企画も、事業所のみならず一緒に取り組んで、高校生や予備校生が元気に医学部を目指して頑張る決意を語っています。「医師になったらここで働きたい」という感想まで出してくれるほどの感動に、担当者もやりがいが出



ます。卒年対策から低学年や高校生対策にも本格的に挑戦できる体制ができました。

医学対活動は、今後の民医連医療を支えるもっとも困難で重要な活動であると考えております。

今後事業所のみならずのご協力をいただきながら、医学対活動の飛躍を成し遂げたいと思います。

## 新民医連綱領を指針に 積極的に運動に取り組む

坂総合病院事務部長 小野寺 知 洋



2011年も幕を開け、坂総合病院・クリニックにとつての今年も、昨年までの医療活動に確信を持ち、より一層充実した一年にしたいと考えています。

まず第1に、地域医療支援病院として、救急・急性期医療の質・機能の向上、紹介患者の受け入れ強化、4疾患5事業の推進などに力を入れていき、総合的医療活動を安定させ更に発展させていく必要があります。第2に、公益法人移行申請に伴う中での事業収益確保・事業整備も必要となってきます。具体的には、昨年の4月から実施している坂総合病院の入院での無料低額診療を、クリニックの外来でも開始する方向で検討を進め、誰もが安心して受診できる環境を作り出す。また、総合マネジメントシステムの稼働・原価計算システムの活用で各部門の問題意識の共有化が可能になるので、目標に向けた具体的な議論をより活発に行なうようにします。

そして最後に、新民医連綱領を指針とし「気になる患者訪問」「国保税引き下げ運動」など昨年同様に、情勢を正しく捉え、地域の皆さまと共同し、地域に出る運動も全職員挙げて積極的に取り組むたいと考えております。

# の抱負



## 病院が地域で役割をフルに 発揮できるように全力尽くす

長町病院副事務長 羽 淵 寛 隆



1月1日付で副事務長として長町病院に配属となりました。長町病院は、入職時最初に配属になった病院です。入職時は、先輩方の背中をひたすら追いつながら外来・病棟の請求業務などをしておりました。また、一緒に仕事をさせて頂きました先生方、看護師さん、技術系の方には医療現場を知らない私に丁寧な指導を頂きました。それは、現在の私の土台になっております。

その後県連医学村・坂病院診療サービスクで多くの経験をさせて頂き、6年ぶりの長町病院です。(余談ですがその間、私の内臓脂肪と子供も増えました。)

そんな私の今年の抱負。①メタボを解消すること。院内ではエレベーターではなく、階段を利用したいと思えます。②院内で予定されている病院医療機能評価など成功させる為の取り組みをおこなっていきたく思います。③医局事務での業務が多くなると思っています。業務に早く慣れること。

先生方・他職員とも連携して、長町病院の地域での役割がフルに発揮できるよう全力を尽くしていきたいと思っております。

### 最優先課題は黒字経営での リニューアル成功

泉病院副事務長 阿部 一彦



いつまでも若いつもりではないが、今年2月には50歳になるうとしていいる。これまでの30年余りを振り返り、今の自分に与えられた目標(仕事)について考えてみた。

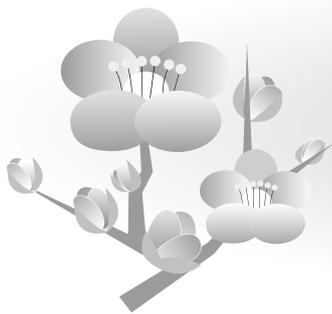
宮城厚生協会に入職して早いもので15年が経過しようとしている。興味のある分野で生計が立てられればと30歳を過ぎての転職だった。昨年10月の泉病院への異動により「泉病院リニューアル」に少なからず関わることになったが、最優先課題は黒字経営でのリニューアル成功が求められている。

この間、本部経理時代には長町病院と坂総合病院の建設に際しての業務を経験する機会を得た。坂総合病院建設時には、業者との契約書の締結や支払いはじめ、金融機関との借入金交渉、経営試算の作成等、様々な対応に追われながらも充実した時間を過ごせた記憶している。

図らずも今回の巡りあわせで、三度目のリニューアルに携わることになるであろう。幸せに感じつつも身の引き締まる思いでいる。職員と友の会会員に依頼しながら、この地での新しい病院への立替えをサポートすることが、今年の課題だと思っている。

日々健康に過ごせるよう、息子と一緒にプールに通って体力維持に努めたい。

# 今年



### 「大崎民医連」の灯を絶やさないうよう任務にあたりたい

古川民主病院副事務長 大槻 透



入職したての私を窓口で可愛がってくれた「おじさん」「おばさん」が今では「おじいちゃん」「おばあちゃん」となり古川民主病院の介護病棟や障害者病棟に入院されています。そして残念ながら多くの

の方が既に亡くなられました。古川民主病院の構造転換は県連医師体制の結果でもあり、地域要求や地域情勢の変化の結果でもあります。客観的には診療所時代から地域で支えてくださった大先輩方を最後まで長期に療養できる場として自ら姿を変えてきたようにも見えます。古川民主病院が現在地に移り20年以上経過しましたが、共同組織の方々と話すたびに本当に頼りにされ支えられてきたことを強く感じます。歴史のふりかえりは、私たちの医療活動の凄みを強く感じる瞬間ですね。大先輩方が築きあげた「大崎民医連」の灯を絶やさないうよう引き続き任務にあたりたいと思っています。

最後に、折角の機会なので民医連の大先輩でもある亡き母の詩(伝言)の一部を紹介し今年の抱負にかえたいと思います。

「友よ 人生は竹だ 細くともいい 苦しみ悲しみに心をかきむしり それでも一つ一つ節をつくりたちなおし 成長していく竹だ それがわからず 最初の節で ぐりに折ってしまったら それは とりかえしのつかない 本当に悲しむべき事だ 友よ ひとつひとつ深刻に悩み 喜び なお幸せを求め 成長していく人生は 竹だ 私の竹はシーネが入っている あなた方の竹は これからのびる 一人が悩んだら 一人は手をさしのべよう そのとき節はつくられる(以後省略)」



往診中の菅原先生



## こんな夢をみた

古川民主病院副院長 菅原 茂

さわやか エッセイ

### 携帯端末入力

20××年。とある朝。めざました彼は、そろそろ薬もないし、今日は病院に行こうと携帯端末の病院用アクセスコードとパスワードを入力した。まもなく、画面に黄色のメタボの警告サインが点滅しだした。

しばらく採血を受けていなかったのも、予約時間とメタボコースの採血希望のメッセージを入力した。3分もすると、最も待ち時間の少ないであろう時間の予約をとったこと、採血を行う旨の返答が返ってきた。

### 医療現場も様変わり

かつては労働集約的産業の代表であった医療の現場も様変わりし、病院の慢患専用ブースはガランとして、自動受付と自動バイタル測定器が置いてあるだけであった。

彼は、汗でベタついた手を拭くと、測定器にのせた。

敏感な器械らしく、汗ばんでいるとエラーメッセージが頻繁に出てくるのである。そのため緊張するのか、いつも血圧は高めであった。

診察室では、イエローの点滅が赤の点灯に変わったら「メタボ改善プログラム」を導入することを医師に告げられた。

診察も終わり携帯端末のモバケーで暇をつぶしていると、会計終了と薬ができたメッセージが絵入り文字で流れてきた。

### 「タイオン36ド5ブ」

ある日のこと、大幅に増加した電力需要のために、日本中でシステムダウンがおこり、病院はパニックとなった。久しく文字を書くことのなかったであろうベテランの看護師は、カタカナで「タイオン36ド5ブ」と記入していた。

全てが、〇〇年前の世界に戻っていた。

彼は「『5ブ』って何なの?」と思いつつ、はじめての経験であった体温計のちょっとくすぐったい感覚が妙に忘れられないのであった。

